

令和6年度千葉県立検見川高等学校 学校目標及び学校評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける 該当質問項目 <small>(職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)</small>		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ	
				肯定的 回答	否定的 回答	肯定的 回答	否定的 回答					
学校経営	1 家庭・地域と連携し、開かれた信頼される学校づくりを推進する。 2 全ての職員が仕事に誇りと責任を持ち、不祥事を起こさないという意識を高めるとともに、組織的に業務に当たり、既存の考え方や在り方を見直し、働き方改革を進める。	① ①ホームページを整理するとともに最新の情報を発信する。	① ホームページを年間100回以上更新する。	11	生 保	検見川高校は、家庭への連絡や情報提供をきめ細かく行っている	76.7% 23.3%	72.3% 27.7%	ホームページの更新は概ね130回行った。できる限り最新の情報を載せるとともに、ページの整理を行った。一部更新されていないページがあり課題である。アンケートでは、生徒評価は、昨年度と比較し約4ポイント上昇しているが、保護者の評価が9ポイント下降しており課題が残る。	ホームページによる情報発信は概ね達成できているので、次年度も同様に進める。更新の頻度が少ないページについては、更新を促すとともに、整理することにより見やすくなる。また、保護者の評価を踏まえ、保護者向けの情報発信について再検討する。	ホームページの更新はよくされていて、地域活動に参加している生徒の様子等も掲載されている。今後も継続して進めてほしい。	ホームページについては、地域活動の様子も含め、最新の情報が発信できるようにする。また、保護者向けの情報発信については、できる限りメール等を用いて行うが、他の手段についても検討する。
		② 地域や関係機関との交流を行うとともに、保護者等に授業を公開する。	② 地域や関係機関との交流回数と授業公開の回数の合計(年間5回以上)	/		授業公開は3回実施した。また、地域との交流については、家庭科の授業の一環として実施した保育体験、吹奏楽部の演奏、野球部のボランティア、サッカー部及びバスケット部の小学校での指導等、8件の交流を行った。	地域を活用した学習や地域との交流を継続して行う。また、よりよく学校の取組を知ってもらうため、授業等の公開の回数や実施方法も含めて検討する。	地域の方や特別支援学校の保護者からも活動を継続してほしいという声があった。今後も続けてほしい。	地域を活用した学習及び地域との交流については引き続き行うとともに、新しい取組も増やすことを検討する。また、授業公開の在り方は検討する。			
		③ 校舎内外の安全点検及び巡回を行うとともに、書類等の点検を複数職員で確実にを行う。	③ 施設・設備の点検表及び巡回状況の確認、書類等の点検体制の確認			校舎内外の巡回、定期点検、防犯カメラ等によって、安全の確認を行えた。文書の点検は、成績に係る情報や進路関係の書類について、複数職員で対応して誤りなく行うことができた。	巡回や定期的な点検等を徹底して行う。また、校舎の老朽化等も進んでいるので、危険箇所は早期に見出し速やかに対応する。文書等の点検は引き続きマニュアルどおり進めて誤りのないようにする。	生徒の健康や安全を守る上で、できることに取り組んでほしい。	定期点検に加えて、生徒からの情報も収集し、安全に教育活動を進められるようにする。また、文書等については、マニュアルに従い十分な点検を行うことで誤りのないようにする。			
		④ ICTを活用した業務の改善を一層進めるとともに、個々の職員の定時退勤曜日を設定し、勤務時間に対する意識を高める。	④ ICTの活用状況及び職員の在籍時間等の状況の確認			ICTを活用し、保護者からの欠席連絡、職員間の情報共有、会議資料等の事前配付などを行い、業務の軽減を図った。しかし、一部の職員に月45時間以上の超過勤務が見られる。	ICTの活用は図れているものの、職員によって業務の偏りが見られることから、業務の均等化を進める必要がある。校務分掌の改編等を行う予定であるが、部活動指導等、特定の職員が担う業務があり、均等化を図る上で課題もある。	職員の働き方については、生徒に対する指導に大きく影響するので、業務のバランスも考慮し、月45時間以上の超過勤務が発生しないよう配慮してほしい。	生徒の指導が効果的に行われることを第一に考え、職員の業務分担において、大きな偏りが生じないよう十分検討する。			
学習指導	ICTを活用するとともに、授業改善を図り、質の高い学習指導を実践し、生徒の学力を向上させる	① 生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善を進める。	① 生徒の授業評価の肯定的評価の割合(80%以上)			18	生	私は授業を理解している。	78.5%	21.5%	各科目の特性に応じてICTを活用した授業を行った。生徒アンケートでは昨年度よりも肯定的回答率が上昇しているが、授業に対する理解度については、80%に達しておらず課題が残る。	ICTの活用により、授業改善が進んでいるが、各教科において授業評価等を用いながら今年度の授業の在り方について振り返り、より一層理解の深化に向けた学習指導を行う。
		② 一人一台端末を活用した授業に係る研修を行うとともに相互授業参観の機会を設ける。	② 一人一台端末活用に係る研修及び相互授業参観の実施状況	/		学校DX推進パートナーを活用し、個別研修を行った。また、12月にはAIに係る研修等を実施した。一人一台端末を有効に活用した授業が多くなり、校外からの視察等もあった。相互授業参観の期間を設定できなかったが、活用の進んでいる授業を参観する機会は持てた。	次年度も一人一台端末を活用した授業の在り方を研究し、授業実践に繋げていきたい。学校DX推進パートナー等を活用し、個別対応も含めた研修を充実させる。相互授業参観の機会を設けることを検討する。	改善方策のとおりでよい。	一人一台端末を活用した授業の在り方を研究し、授業改善を進めるとともに、学校DX推進パートナー等を活用し、個別対応も含めた研修を充実させる。相互授業参観の機会を設けることを検討する。			
		③ 到達度テスト等を活用し、生徒の学力を確認するとともに、情報を共有して課題を明確化し、生徒の学力向上を図る。	③ 客観的学力を職員が把握する機会回数及び生徒の学習に取り組む姿勢の変容			15	生	検見川高校の先生方は、授業を工夫し、わかりやすい授業をしてくれる。	83.4%	16.6%	到達度テストを2回、実力テストを2回、GTECを1回実施し、生徒の基礎的な学力や総合的な学力を確認することができた。テストの結果を用いて学習課題を明確化した上で学習指導を行えた。授業外での学習の取組が向上した。	引き続き到達度テスト等を活用し、生徒の学習課題を明確化するとともに、学習用アプリ等を活用し、生徒自身が主体的に学習を進められるよう支援する。
生徒指導	諸活動を通して自主自律の精神を養うとともに、教育相談体制を充実させる。	① 日常的に基本的な生活習慣に係る指導を行うとともに、安全指導や情報モラルに係る指導等を行う。	① 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(90%以上)及び安全指導・情報モラルの指導の実施状況			23	生 保	校則や社会のマナーを守り、責任ある行動をとっている。	95.9% 4.1%	95.3% 4.7%	日常の指導、定期的な指導、個別の指導などを通して基本的な生活習慣の定着を図った。また、生徒対象の情報モラル研修等も外部講師を招いて実施した。生徒及び保護者の肯定的回答は95%を超えており、目標は概ね達成している。	目標は概ね達成しているが、生徒を巡る環境が大きく変化していることから、今年度と同様の取組を行うとともに、安全指導、情報モラル教育、人権教育等を充実させる。
		② 周年行事への生徒の参画や生徒による生徒指導規程の見直しに係る機会を設ける等、諸活動において主体的に行動する場面をできるだけ多く設定する。	② 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(80%以上)	14	生	検見川高校は、生徒の自主性やリーダーシップの育成に取り組んでいる。	78.9%	21.1%	50周年記念式典においては、生徒参画の場を設けたことで、生徒が式の進行等を行うなど、主体的に取り組むことができた。他の行事についても生徒の主体的な取組が見られた。また、校則の見直しについても生徒の意見表明の場を設けた。	生徒の主体的な取組ができる場を次年度も設ける。また、制服改定についても生徒の意見を取り上げるとともに、選定については生徒を参画させるなど、生徒が意見表明できる場を設ける。	改善方策のとおりでよい。	行事等において生徒の主体的な取組ができる場を設けるとともに、制服改定や校則等、生徒に関わることについては生徒の参画を前提に進める。
		③ 学期ごとに面談週間を設定するとともに、アンケートを実施し、いじめや諸課題の早期発見、早期対応に組織的に取り組む。	③ 生徒の学校評価アンケートの肯定的回答(80%以上)及び当該生徒に対する支援や対応の状況	16	生	先生方は生徒の悩みや相談に、親身になって応じてくれる。	86.4%	13.6%	生徒アンケートでは肯定的回答が86.4%と目標値を上回った。毎学期ごとに授業を短縮し面談週間を設けるとともに、学校生活アンケートを実施した。生徒の課題について早期に対応することで、十分な支援につながった事例があった。	概ね目標は達成できたものの、生徒の抱える課題が多様化していることや学校での支援のみでは解決が難しい課題もあるので、次年度は関係機関との連携も含めて、生徒の課題について対応する組織を強化する。	この項目については、生徒の命に関わることも含むので、マイナス評価の生徒が10%以下を目標にするなど、しっかりと取り組んでほしい。	今年度の取組を引き続き行い、生徒の課題を早期に発見するとともに、より一層生徒が相談しやすい体制を整備する。また、生徒の抱える課題が多様化していることを踏まえ、関係機関との連携も含めて対応する組織を強化する。

キャリア教育	生徒が主体的に進路を選択できるようキャリア教育を進めるとともに、個々の進路課題に対する支援を充実させる。	①進路ガイダンスや進路講演会等を行うとともに、保護者向けの進路説明会も行う。	①進路ガイダンスや保護者向け進路説明会の実施状況	進路ガイダンス等は1年5回、2年6回、3年9回実施した。特に3年生は進路に応じたガイダンスを行った。また、保護者向け説明会を各学年ごとに実施した。			進路ガイダンス等により、生徒の進路意識が高まり、進路選択に結びついていることから、次年度も内容を一層充実させつつ、継続して実施する。	将来の進路を考えて学習に取り組んでいる生徒が76.3%いることから、指導が行き届いていると感じる。より一層指導を充実させてほしい。	生徒の進路希望の傾向を踏まえつつ、進路ガイダンスや進路説明会の内容を一層充実させ、生徒及び保護者の進路意識の高揚を図る。						
		②進路だよりで最新の情報を生徒及び保護者に提供する。	②進路だよりの発行回数(年10回以上)及び生徒・保護者の学校評価アンケートの肯定的回答(80%以上)				25	生 保	私は、進路について保護者(子供)と会話している。	84.6% 15.4%	85.1% 14.9%	進路だよりは1月末までに12回発行し、時期に応じた最新の情報を生徒・保護者に提供した。また、ホームページにおいても発信を行った。アンケートによると、生徒及び保護者とも、目標値の80%を大きく上回り、概ね目標を達成できたものと思われる。	次年度においても、適切な時期に進路だよりを発行し、生徒及び保護者に最新の情報を提供する。また、ホームページやメール等を活用した発信も行う。	改善方策のとおりでよい。	進路に係る最新の情報を掲載した進路だよりを適切な時期に発行し、生徒と保護者が進路について考える機会を得られるようにする。また、ホームページやメール等を活用した発信も行う。
		③進学ゼミ、進路別説明会、個別相談等を通して、個々の進路実現に向けた支援を行う。	③生徒・保護者の学校評価アンケートの肯定的回答(85%以上)及び実施状況				4	生 保	検見川高校は、各学年に必要な情報を提供したり、ゼミを実施したりするなど、進路指導が充実している。	90.0% 80.7%	10.0% 19.3%	進学ゼミ(進学課外授業)は17講座開講し、授業日には朝又は放課後、長期休業中にはまとまった時間を確保して実施した。また、生徒の進路選択に応じた進路説明会を複数回実施した。生徒の満足度は90%であったが、保護者の満足度が目標値に達しなかった。	進学ゼミや進路説明会は、内容を見直しつつ、実施を継続する。面接指導や個別相談も丁寧に行い、生徒の進路実現に向けた支援を行う。	改善方策のとおりでよい。	進学ゼミや進路説明会は、今年度の内容を見直しつつ、生徒の進路希望を踏まえて適切に行う。生徒の進路希望に応じた面接指導や個別相談を丁寧に行う。
		①総合的な探究の時間をはじめとする探究活動において、一人一台端末を活用する。	①探究活動における一人一台端末の活用状況及び生徒の取組状況				総合的な探究の時間において、情報収集、プレゼンテーションの実施やレポート作成において一人一台端末を活用した。			総合的な探究の時間において、情報収集、プレゼンテーションの実施やレポート作成において一人一台端末を活用した。	総会的な探究の時間において、一人一台端末を活用しながら、課題解決に向けて、情報収集、データ分析、プレゼンテーション等、より一層協働的な学習を行えるようにする。	改善方策のとおりでよい。	総合的な探究の時間において一人一台端末を活用して活動を行うが、特に協働的な学習を行う上で効果的かつ効率のよい活用方法を探り、生徒の学習に反映させる。		
		②学校DX推進パートナーを活用した研修や外部講師による研修等を行い、ICT活用を一層推進する。	②研修の実施状況とICT活用の変容							学校DX推進パートナーによる個別研修や助言、支援によって、校内のDX化を進めた。授業だけではなく、学校説明会や学校行事等でも一層ICTを活用した。	学校DX推進パートナー等を活用し、ICTの活用に係る研修を充実させる。さらにAIの活用や情報IIに係る研修等を実施する。	生徒がAIを使う上で、適切な指導をしないと「考えない生徒」になってしまう危険性がある。活用する方法も含めて先生方の理解を深めてほしい。	学校DX推進パートナー等を活用し、より効果的にICTを活用できるよう研修するとともに、授業におけるAIの活用や情報IIの指導に係る研修等を実施する。		
		特色ある活動	高等学校DX加速化推進事業の採用校としてICTの活用等を一層充実させる。				①総合的な探究の時間をはじめとする探究活動において、一人一台端末を活用する。	①探究活動における一人一台端末の活用状況及び生徒の取組状況	総合的な探究の時間において、情報収集、プレゼンテーションの実施やレポート作成において一人一台端末を活用した。			総合的な探究の時間において、一人一台端末を活用しながら、課題解決に向けて、情報収集、データ分析、プレゼンテーション等、より一層協働的な学習を行えるようにする。	改善方策のとおりでよい。	総合的な探究の時間において一人一台端末を活用して活動を行うが、特に協働的な学習を行う上で効果的かつ効率のよい活用方法を探り、生徒の学習に反映させる。	
	②学校DX推進パートナーを活用した研修や外部講師による研修等を行い、ICT活用を一層推進する。	②研修の実施状況とICT活用の変容	学校DX推進パートナーによる個別研修や助言、支援によって、校内のDX化を進めた。授業だけではなく、学校説明会や学校行事等でも一層ICTを活用した。	学校DX推進パートナー等を活用し、ICTの活用に係る研修を充実させる。さらにAIの活用や情報IIに係る研修等を実施する。	生徒がAIを使う上で、適切な指導をしないと「考えない生徒」になってしまう危険性がある。活用する方法も含めて先生方の理解を深めてほしい。	学校DX推進パートナー等を活用し、より効果的にICTを活用できるよう研修するとともに、授業におけるAIの活用や情報IIの指導に係る研修等を実施する。									